


取り組み

01 高大連携事業

報告の様子は「道東テレビ」のYouTubeチャンネルで配信しています。



津別高校独自のカリキュラムである「つべつ学」。2年生が受けている「つべつ学II」では、北海道大学の学生の力を借りながら「次世代型農業」、「魅力発信」、「林業」、「次世代教育・交流」の4つのテーマについて1年間探究してきた。昨年12月16日には、町民会館で活動成果報告会が行われ、18名の生徒が大学関係者や町民へ向けて自分たちの提言を発表。さまざまなアイデアが出され、まちの活性化へとつながるヒントで溢れていた。



▲活動成果報告会で高校生が自分のアイデアを大学関係者や町民へ向けて発表した

大学生と高校生がそれぞれのテーマについて熱い議論を繰り返している



02 つべつマルシエ 取り組み

令和5年9月24日、北海道大学構内のカフェ(北大マルシエ)にて津別高校2年生の6名とともにつべつマルシエを実施した。「発信」を目的として行われ、津別の情報をまとめたポスター発表や特産品販売などまちの魅力を伝えたい。発信を通して、高校生に津別をより深く知ってもらいたいこともHALCCの狙いだ。

当日は100名以上の方がつべつマルシエを訪れ、高校生がポスター発表を通して積極的に津別をPR。特産品販売においては呼び込み活動の成果もあり、完売を達成した。この活動の中で大学生と高校生との進路相談など対話をする機会が多くあった。また、マルシエを経験したことでのコミュニケーション能力向上など、成長を遂げることができた。来年度以降もキャリア教育としての価値を高めながら継続していく予定だ。

03 大学生独自事業 取り組み

令和4年度に大学生が独自事業として提言した「クマヤキ免許証プロジェクト」。まちの特産品であるクマヤキが抱える課題の一つ、「人手不足」を解消するためフィールドワークを行った。この政策を実践するため、昨年はHALCCメンバーの一人が約1か月にわたる道の

次世代型農業班は津別町の農業の持続および発展の可能性を高校生の目線でさまざまな切り口から模索した。魅力発信班は移住定住を促すうえで重要となり得るまちの魅力を生徒目線で考察し、その魅力を最大限活用できる政策を提言した。林業班は津別町の豊富な自然環境を活かした観光の取り組み、持続可能な循環型・低炭素社会の実現のための施策について議論を重ねてきた。次世代教育・交流班は町内の若者をターゲットとし、働きやすさや日々の活動といった視点から住みたくなるまちづくりを考察してきた。高校生一人ひとりの提言を聞いた北海道大学公共政策大学院の中山教授は「まちの資源をよく理解している。鋭い視点で解決策を見出した」と高校生の発表を絶賛した。



3日間にかけて開催された北大祭で、HALCCが目標としていた個数、2200個をすべてを販売した。この結果は、「クマヤキ免許証プロジェクト」の実行の可能性を示唆するものとなった。

クマヤキ修行的様子を「道東テレビ」のYouTubeチャンネルで配信中

